

アラグリオ顆粒剤分包[®]の適正使用に向けた多職種での取り組み

藤尾 実穂¹⁾、大城 里紗¹⁾、村田 和歌子¹⁾、櫻井 明子¹⁾、安達 嘉織¹⁾、佐野 隆大¹⁾、
柴田 博子²⁾、福井 由美子¹⁾、坪谷 一樹³⁾、大場 健史³⁾、田中 宏和³⁾

- 1) 兵庫県立加古川医療センター 薬剤部
- 2) 兵庫県立こころの医療センター 薬剤部
- 3) 兵庫県立加古川医療センター 泌尿器科

【目的】

光線力学診断用薬「アラグリオ顆粒剤分包[®]」は、経尿道的膀胱腫瘍摘除術時に用いられるが、併用禁忌薬が多く、併用禁忌の期間も長い。また、併用禁忌薬への注意だけでなく、使用直後の徹底した遮光が必要である。当センターでは導入にあたり「アラグリオチーム」を立上げ、適正使用に取り組んでいるので報告する。

【取り組み内容】

同薬剤の導入にあたり、泌尿器科医師、病棟・入院サポートセンター・手術室看護師、薬剤師で適正使用に向けて各職種で以下の点について協議を行った。

- ① 併用禁忌対象薬剤決定（医師・薬剤師）・併用禁忌薬一覧作成（薬剤師）
- ② 処方箋記載・指示簿作成（医師・薬剤師・病棟看護師）
- ③ 併用禁忌薬確認（薬剤師・入院サポートセンター看護師）
- ④ 併用禁忌薬の中止決定・指示（医師）
- ⑤ 照度測定・術中術後の環境の調整（病棟・手術室看護師、医師）
- ⑥ 退院指導時の併用禁忌薬や期間の指導（薬剤師）

また、これらの内容を含んだクリニカル・パスを作成し、導入後に振り返りカンファレンスにて問題点の抽出・情報共有を行い、一部運用を変更した。

【結果・考察】

入院サポートセンターと連携した併用禁忌薬の確認や入院中の遮光環境、退院時の指導徹底等、導入前に多職種による適正使用に向けた体制を構築したことで、より安全かつ円滑に同薬剤を使用することができた。今後、さらに多職種で運用の見直しを行いながら適正使用に努めていきたい。